

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立緑ヶ丘小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 宗形 恵里

学校教育目標		学校経営の方針		
心豊かで たくましく 自ら学ぶ児童の育成		「みんなでつくろう！ 笑顔あふれる あたたかい学校」 ○ESD(持続可能な開発のための教育)の視点で教育課程を実施し、自ら考えて行動する力の育成に努めます。 ○自他の命を大切に、互いのよさを認め合う心情を育む「ダイバーシティな学校づくり」をめめます。 ○全職員の協働体制と、学校・保護者・地域の協働『TEAM MDR』で、児童を育みます。		
今年度の重点目標				
〈豊かな心〉 ・自他を大切にする心を育てる ダイバーシティ教育 ・人間性や実践力を培う道徳教育 ・友達のよさを認め合う人間関係づくり ・子どもの心の居場所のある学級経営		〈確かな学力〉 ・基礎基本の定着を図るための授業づくり ・児童が主体となる学びづくり ・個別最適な学びに向けた環境づくり ・一人1台端末の活用	〈健やかな体〉 ・「いのち」を守る安全教育の推進 ・たくましい体をつくる健康教育、食育の推進 ・きれいな学校をつくる環境教育の実施 ・安心安全な学校環境づくり	〈チームで育む〉 ・「地域とともにある学校づくり」の推進 ・学校運営組織の活性
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標の内容・取組	1・2・3	全教育活動を通しての取組 授業参観・学級懇談会 学校だより等で周知	内容や取組は、理解され目標が達成されている。	来年度もグループを3グループ編成にし、重点課題の達成を目指していく。
学校だより、学年だより、HP、緊急メール配信	3	教育活動の紹介 児童の健康・安全の情報共有 地域との連携	年間の教育活動の様子を、各種おたよりやホームページ等で公開し、十分理解されほぼ目標が達成されているが、昨年度と比べ、ホームページでの情報発信に課題が見られる。	学校ホームページの充実を図り保護者の要望に応える。来年度から導入される連絡アプリを活用し、お手紙の配付を実施していく。
人を思いやる心、いのちの大切さ	1・2・3	道徳教育の充実 人権週間の取組 児童教育相談の実施	学年、学級経営の中で、学校生活における行動や言葉遣いについて考え、いじめのない学校をめざした。道徳の授業を通して、人権意識を高め、思いやりの心や自他ともに命を大切にする授業を展開した。	学校全体で授業や生活指導を通して、思いやりのある児童を育てたい。定期的なアンケート実施を継続し、児童教育相談もより充実させる。
家庭学習の習慣化	1	学習課題の計画、準備、実施 長期欠席者への授業支援 自主学習ノートの掲示	毎日の家庭学習は、定着しつつあるが個人差はある。児童の実態に応じた個別対応も行った。GIGAスクール端末の常時持ち帰りははじめたことにより、端末を使っでの家庭学習の実施や長期欠席児童には端末を通して課題の指導をすることができた。	自主学習ができるような指導を行うことで、主体的な家庭学習の充実を目指す。そのために家庭学習への保護者の理解や協力を継続して呼びかけていく。

規則正しい生活習慣や礼儀正しい行動の定着	2	学級指導や保健だより等での指導	規則正しい生活習慣が健康な体にとって大切であることと、礼儀正しい行動が円滑な人間関係にも必要であることを指導した。	生活リズムがつかめていない児童に対して、家庭との連携をより一層図っていく。円滑な人間関係を築けるように礼儀正しい行動の大切さも引き続き指導していく。
安全教育、教育活動への配慮	1・2・3	全職員の共通理解のもと、毎日が安全な学校生活となるよう努力する。生活委員会児童の活動	危機管理意識を高くもち、全教育活動で取り組んだ。避難訓練、防犯避難訓練、登下校指導、交通安全教室を行うことができた。また、常日頃から、災害を意識したシェイクアウト訓練を月1回程度、実施した。	安全的行事の反省をしっかりと行い、更によりものになるよう工夫改善を図る。「自分の命を自分で守る」行動を児童に繰り返し指導する。また、研修により教職員の安全教育への意識向上も図る。食物アレルギー対応研修会を来年度も継続して行う。救急救命法の講習会と同一日に行い研修の充実を図る。
子どもたちに適切な配慮、支援、指導を行っている。	2・3	チームでの対応 報告・連絡・相談の徹底 保護者への丁寧な対応	概ね理解され目標が達成されている。より適切な対応を目指し、連絡掲示板の活用や職員会議等での情報共有、共通理解、研修による指導力向上を図った。日々子どもたちと関わる立場として、より一層先を見通した指導を全教職員で行えるようになることよい。	子どもたちの状況に合わせ、必要な支援を全職員でできるように共通理解を図ること、研修により、指導力向上をより一層図っていく。
わかりやすい授業の工夫	1・2・3	授業研究 教材研究	定期的に年間計画を見直し、児童の状況に応じた学習指導ができるように授業研究を行った。また、GIGAスクール端末の導入も3年目を迎え、各学年を中心に効果的な活用方法を研修し実践することができた。	来年度は、GIGAスクール端末の活用を継続しつつ、教科指導の研究に主軸を移し、研究授業、校内研究、研修で研究を深め、教師の指導力をさらに高めていく。また、カリキュラムマネジメントを全職員で行い、児童の状況にあった授業の工夫を進めていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校で生き生きとした子どもたちの様子から、児童が楽しく安全に学校で過ごせている様子がわかる。
各項目で、C評価をした児童のケアをお願いしたい。
学校からの父兄に対する状況報告等がよく行き届いていると思う。
児童の学習に対する意識が定着してきていると思う。今後も家庭・地域への発信をして欲しい。
昨年度より児童も保護者も学習に対する意識の高まりがみられてよいと思う。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

昨年度から、様々な教育活動が再開されている。今後も、OODA(観察、判断、決定、実行)ループを活用し、カリキュラムマネジメントを実施し、子どもたちの学びがより一層充実したものとなるよう取り組んでいく。
〈確かな学力〉今年度から教科(国語)指導を高める研修・研究を進めた。来年度も引き続き実施していく。また、自主的な家庭学習が行えるように指導実践をしていく。
〈豊かな心〉健全な人間関係が築けるような学級経営、縦割りでの活動などの特別活動の充実を図り、子どもの主体的な活動を進めていく。また、子どもの困り感に寄り添えるような支援体制をより強化していく。
〈健やかな体〉安心・安全な学校づくりにより一層、努めていく。校内においては、日々の生活中で、落ち着いた校内環境を整える。校外においても、登校班がない分、公道の歩き方、放課後等に出かけた際の防犯ブザー携帯や自転車乗車時のヘルメット着用、公園等での遊び方について、地域・家庭と連携して指導に努める。
〈チームで育む〉保護者の皆さまや地域の方々に子どもたちの学びをお手伝いいただく学習ボランティアの募集を増やす。また、学校ホームページ等による情報発信と共に、授業参観や懇談会、ボランティアで来校いただいた際など、今年度以上に子どもたちの様子が見えるように努力する。指導力向上については、子どもたちの学習や生活において、適切な指導・支援が行えるように引き続き、校内での研修や外部講師による講演会等を行っていく。